

地域を循環するリユースびん

World Seed 副代表理事 なか しま ひかる 中島 光

1. リユースびんって何なの？

一般に一升びんやビールびんを指し、中身を飲みきったら空きびんを割らずに回収し、洗浄した上で再度容器として利用できるのが「リユースびん」です。「3R」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？3Rは、リデュース（排出抑制）・リユース（再利用）・リサイクル（再資源化）のことをいいます。上から順に優先順位があり、まずできるだけごみを出さない、または資源を使わない（リデュース）、次に使えるものは捨てずに繰り返し利用する（リユース）、最後にリサイクルです。リサイクルは皆さんも一度は聞いたことがあるかと思いますが、リユースはどうでしょう？リユースびんはこのリユースに該当します。しかしながら、大量生産・大量消費等の影響により、リユースびんを代表する一升びんの出荷数量（利用量）は1995年度から2015年度までの約20年で4分の1以下に減少し、空きびんの回収率も減少傾向にあります。（出典：1.8L 壺再利用事業者協議会）

何回も利用することにより、新たな容器を作る必要がなく、容器を作る際に必要なエネルギーを節約できるとともに、資源の節約にもなります。特定の地域で

循環すれば地球環境負荷を低減させる効果があり、地球環境問題が喫緊の課題となっている今日において、これを解決する一つ的手段としてリユースびんの利用と普及のあり方を再度考える必要があります。国においても2011年に「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」を立ち上げ、リユースびんの普及方策の検討を続けています。

2. リユースびん入り大和茶『と、わ (To WA)』の誕生

NPO団体「World Seed（大阪府八尾市）」（以下、当団体）では、このリユースびんの普及事業を2009年より展開しています。当団体では2012年に「環境省びんリユースシステム構築に向けた実証事業」の採択を受け、新たなリユースびん入り飲料「リユースびん入り大和茶『と、わ (To WA)』」の誕生



写真1 『と、わ (To Wa)』

WA』の開発を行い、奈良県を中心とする近畿圏において本飲料を2012年11月よりリリースしました（写真1）。

新飲料の中身に関しては、リユースびんの普及はもとより、直接的に地域経済にも貢献できるものとするため、奈良県特産品の日本茶である大和茶（やまとちゃ）を用いることにしました。

2.1 繰り返し利用するために

リユースびんは利用後、空きびんを回収し再び利用することで資源を節約し、地球環境負荷を低減させるため、その流通において安定的な供給はもとより、確実な空きびんの回収システム（びんリユースシステムと呼称）の構築が不可欠です。本事業においては、本飲料の製造事業者である「能勢酒造（株）（大阪府能勢町）」と本飲料の供給と空きびん回収を担う業務用卸事業者の「（株）桶谷（奈良県奈良市）」との間でびんリユースシステムの構築を図りました。

2.2 会議でも使いましょう

リユースびん普及の意義を広く社会へ発信する目的のもと、地方公共団体が主催する会議等において飲料を提供する場合、本飲料を導入してもらうよう働きかけを行いました。奈良県奈良市・生駒市においては本飲料の開発段階から導入における意見交換を行い、当団体との連携体制を構築した上で2013年1月より市として本飲料の導入を開始し、会議等での率先利用を開始しています（写真2）。とりわけ生駒市においては行政として2R推進の姿勢が評価され、同年に「第15回グリーン購入大賞 優秀賞（グリーン購入ネットワーク主催）」を受賞しました。また、現在のところ奈良県橿原市や大阪府豊中市においても、環境系の審

議会を中心とし本飲料の導入が開始されており、奈良県を中心とするホテル・旅館・飲食店においても約125店舗まで取り扱いが拡大しているところです。



写真2 会議での利用風景

3. 地域で循環するリユースびん

リユースびん入り大和茶『と、わ（To WA）』のリリースから4年が経ち、奈良県を中心とする近畿圏において今も継続した利用がなされています。またさまざまな関連団体が力を合わせ、普及方策の検討と取り組みを実施していますが、全国的なリユースびんの利用、また空きびんの回収率は減少しています。当団体としては引き続き、本事業を広く社会へ発信し続け、他地域との連携を図っていきたいと考えています。

地球環境問題は、今の私たちの世代、そして次世代へも影響する非常に重要な問題です。「リユースする」という行為は地球上の資源使用量を節約し、次世代へ託すことができます。ぜひリユースびんについても知っていただき、リユースびん入り飲料を見た時は利用し、空きびんを返却してみてください。